

第 43 回法政大学大学院まちづくり都市政策セミナー ポスターセッション

「学生たちがフィールドへ—地域づくりの活動実践・研究報告—」

2018 年 10 月 20 日(土)11:00～[外濠校舎 1 階メディアラウンジ]

コーディネーター: 関司 直也(法政大学大学院人間社会研究科教授)

1. 大学院政策創造研究科 上山ゼミ

「“江戸前アユ” でまちづくり —世田谷区多摩川沿川の観光・交流まちづくりを考える—」

代表者: 大学院政策創造研究科修士 2 年・佐々木隆人

概要: 政策創造研究科上山ゼミでは、地域における様々な資源を活用しながら、持続可能な都市ビジョンを描ける人材、都市や地域に関する調査研究を中心に行っております。現在、都市・地域の様々な資源を“観光”といった視点で捉え、具体的な施策に結びつけていくことも大切なこととして考えられています。「大学生観光まちづくりコンテスト 2018」多摩川ステージに応募した作品について発表します。

2. 大学院政策創造研究科 上山ゼミ「茨城県魅力度最下位脱出に向けた提案」

代表者: 大学院政策創造研究科修士 1 年・石原果奈

概要: 2018 年 9 月 観光まちづくりコンテスト出場時の政策プラン。現在、茨城県は 5 年連続魅力度ランキングにおいて最下位に位置している。この現状から脱出するために、「食」「交通」「教育」の観点から、まちづくりと地域住民の意識の改革を兼ね備えたシクミ作りの提案を行った。

4 度の現地調査の中で、茨城野菜の宣伝不足・地域住民（特に若者）の危機意識の低さ・二次交通が不十分という 3 つの事実がわかった。そのため「食」では茨城野菜を観光客に提供するプランを。このプランに持続性を持たせるために、地域愛を育ませる「交通」と「教育」の政策を加え、2 本柱で「食」を支えるというシクミを提案した。結果、この政策はまちづくりコンテストで「観光物産協会賞」を得ることができた。

3. 大学院政策創造研究科 高尾ゼミ

「地域資源を活かしたまちづくりの実践報告～人の繋がりが織りなす、歴史と文化を活かしたまちづくり・川越蔵の街を調査して～」

代表者: 大学院政策創造研究科修士 1 年・荒井正巳

概要: 小江戸と称される川越は、伝統的な景観と街並みを観光資源としてまちづくりを行なっている。川越の持つ地域資源は伝統的景観によってのみその価値を生み出しているのではなく、伝統的街並みと川越の持つ歴史と文化に魅了された人々の織りなす、まちづくりに向けての複層的な人々のソーシャルネットワークに寄るところが大きいことが今回のゼミ合宿により見えてきた。私たち高尾ゼミでは、まちづくりのキーパーソンの実践活動に関する調査結果を発表致します。

4. 人間環境学部 辻ゼミ (消しゴム落とし隊)「ひとり親家庭の生きづらさ」

代表者：人間環境学部人間環境学科2年・眞野千里

概要：ひとり親が抱える問題は多様化しており、様々な困難に直面している。今回は大きく4つのケースについて、現状と問題点を指摘し、ひとりで子どもを育てる人々の生活を豊かにする道筋を提起する。

5. 人間環境学部 辻ゼミ (高齢者健康促進研究会)「高齢者福祉政策」

代表者：人間環境学部人間環境学科3年・高田 笑那

概要：就労支援や生きがいがいづくりに関して行政やNPO 団体が行っている政策や事業を調査し、高齢化が進む日本社会で必要な福祉事業や地域活動を考察する。

6. 現代福祉学部 保井ゼミ「多摩川 Inclusive Day Out in 二子玉川」

代表者：現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年・沼田啓佑

概要：私たちは、年齢、性別、障がいの有無を問わず、誰もが上質な空間や時間を過ごせる都会の貴重な自然資源である河川敷のあり方を考えるため、二子玉川駅周辺の河川敷において行った3つの調査とその分析結果、それらを踏まえた実践提案について発表します。

7. 現代福祉学部 関司ゼミ「岡山県津山市上加茂地区でのフィールドワーク活動報告」

代表者：現代福祉学部福祉コミュニティ学科2年・高林優樹

概要：関司ゼミは、毎年、農山村地域のフィールドに出向いて、そこに暮らす人たちとの交流から、地域の資源の豊かさや、そこで直面している課題を掴んで、お世話になった皆さんのために、その解決に向けて学び活動しています。今夏に2年生が活動を始めた岡山県津山市上加茂地区の紹介と今後に向けた活動の展望を発表します。